

本発表の流れ

資料の事前印刷はスライド8から行って下さい。
ただし、子どもの写真は当日掲載します。

- ・前半は口頭発表で3歳～5歳の写真を通した育ちについて発表を行います。
- ・後半は発表を聞いて、同じ内容をグループに分かれて行います。
後半には、参加者皆様と共にを行うので、自園の実践写真をA4サイズに印刷してお持ち下さい。

印刷できない場合は、お手持ちのデジタルカメラやスマートフォンの写真を見せ合う形か、本発表者の写真で行います。

後半のグループワークでの流れ

- 2歳、3歳、4歳、5歳のグループに分かれます。
 - 1グループ6～7人程度になるようにします。1グループに本発表者が1人入り、ファシリテーター役となります。
- | | |
|-----------------------------|-----|
| 1. 自己紹介（持参したA4事例写真をもとに） | 15分 |
| 2. チェックシート説明（10の姿×PEMQ） | 5分 |
| 3. 各自がチェックシートに○を付ける | 5分 |
| 4. 各自の写真とチェックシートに書き込んだものの発表 | 15分 |
| 5. ふりかえりの記入 | 5分 |

以後のスライド4・5・6・7の4つのスライド
を基にグループワークを進めます。

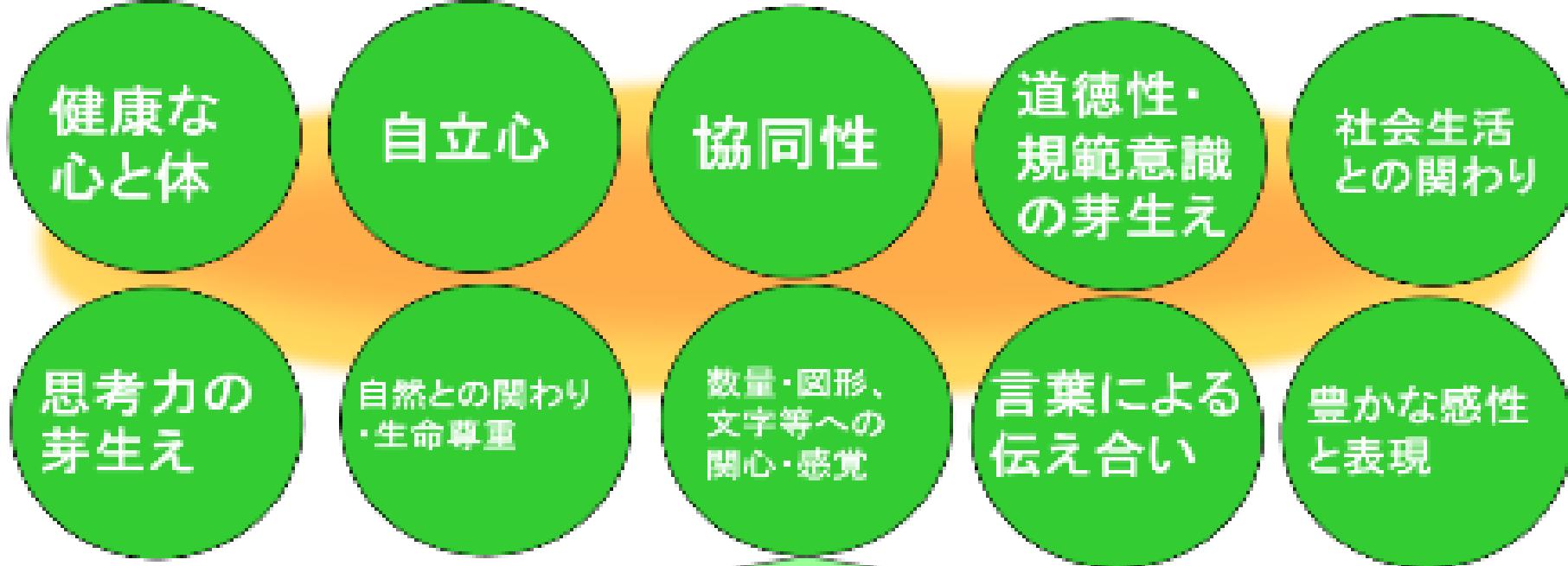
※4枚のスライドは、こちらで印刷したもの
を準備します。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の再整理イメージ（たたき台）

平成22年3月30日
改訂版第2回充実化会議
資料6

大項目の再整理

今、平成22年以降の社会情勢や子供を取り巻く変化、山口教育審議会幼児教育部会等の御議論や「教育課程特別部会『論点整理』等を踏まえるとともに、2030年の社会と子供たちの未来を見据え、再整理したもの。個別の項目の再整理については、次ページ以降に示す。



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿（※）

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生きる三・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年3月31日）に基づく整理。

資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育成すべき 資質・能力の整理イメージ（たたき台）

小学校
以上

個別の知識や技能

（何を知っているか、
何ができるか）

思考力・判断力・表現力等

（知っていること・できることを
どう使うか）

学びに向かう力、人間性等

（情意、態度等に関わるもの
（どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか））

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を
通じて育成される。

（環境を通じて行う教育）
幼児教育

個別の知識や技能の基礎

（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、
何に気付いたり、何がわかつたり、何ができるようになるのか）

- ・基本的な生活習慣の獲得
- ・規則性、法則性、関連性等の発見
- ・様々な気付き、発見の喜び
- ・日常生活に必要な言葉の理解
- ・身体的技能の基礎や芸術表現のため
の基礎的な技能の基礎の獲得

等

思考力・判断力・表現力等の基礎

（遊びや生活の中で、気が付いたこと、できるようになったことなども使い
ながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）

- ・試行錯誤、工夫
- ・予想、予測、比較、分類、確認
- ・他の幼児の考え方などに触れ、新しい考え方を
生み出す喜びや楽しさ
- ・言葉による表現、伝え合い
- ・振り返り、次への見通し
- ・自分なりの表現

等

遊びを通しての 総合的な指導

- ・思いやり
- ・安定した情緒
- ・自信
- ・相手の気持ちの受容
- ・好奇心、探究心
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・話合い、目的の共有、協力
- ・表現する喜び
- ・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・自然現象や社会現象への関心

等

学びに向かう力、人間性等

（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）

・3つの円の中で例示される資
質・能力は、5つの領域の「ねら
い及び内容」及び「幼児期の終
わりまでに育ってほしい姿」から、
主なものを取り出したもの

【子どもが活動したくなる環境】

- 【季節を感じさせる】
- 【見本が展示される】
- 【更なる興味関心が引き出される】
- 【文字や数に対する意識が喚起される】
- 【子どもの多様な表現を促す】

【子どもが利用しやすい環境】

- 【子どもの目線で配置されている】
- 【整理整頓されている】
- 【様々な素材が使用できる（質・量）】
- 【視覚的に情報を捉えやすい】
- 【子どもが自由に手に取ることができる】

子どもの主体性

保育者の意図

【子どもの活動過程を支える環境】

- 【活動に取り組める空間が用意される】
- 【子どもたちの経験を共有できる】
- 【文字や数を通して日々の生活習慣や遊びへの見通しを持つことができる】

【活動の軌跡や足跡が見える環境】

- 【子どもの足跡が残されている】
- 【子どもが自分自身や友達の成長や存在を感じできる】
- 【保護者への情報伝達を意図している】

図1 保育環境を振り返る枠組　由坪ら（2013）

日々の保育に基づいたカリ
キュラム・マネジメント
～実践事例写真から読み取る子どもの姿～

第9回幼児教育実践学会 平成30年8月18日（土）

尼崎市私立幼稚園研究部

研究目的と方法

- 自園の事例（写真）を持ち寄り発表・説明。
- お互いの事例の良い所についてコメント。
- 保育環境を振り返る4つの視点（PEMQ）
- 幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の10の大項目
- 新教育要領の改訂で幼稚園教育以降に育むべき資質・能力に当てはめ。写真の事例がカリキュラムのどの場所に位置づくかを議論して検討。



【子どもが活動したくなる環境】

- 【季節を感じさせる】
- 【見本が展示される】
- 【更なる興味関心が引き出される】
- 【文字や数に対する意識が喚起される】
- 【子どもの多様な表現を促す】

【子どもが利用しやすい環境】

- 【子どもの目線で配置されている】
- 【整理整頓されている】
- 【様々な素材が使用できる（質・量）】
- 【視覚的に情報を捉えやすい】
- 【子どもが自由に手に取ることができる】

子どもの主体性

保育者の意図

【子どもの活動過程を支える環境】

- 【活動に取り組める空間が用意される】
- 【子どもたちの経験を共有できる】
- 【文字や数を通して日々の生活習慣や遊びへの見通しを持つことができる】

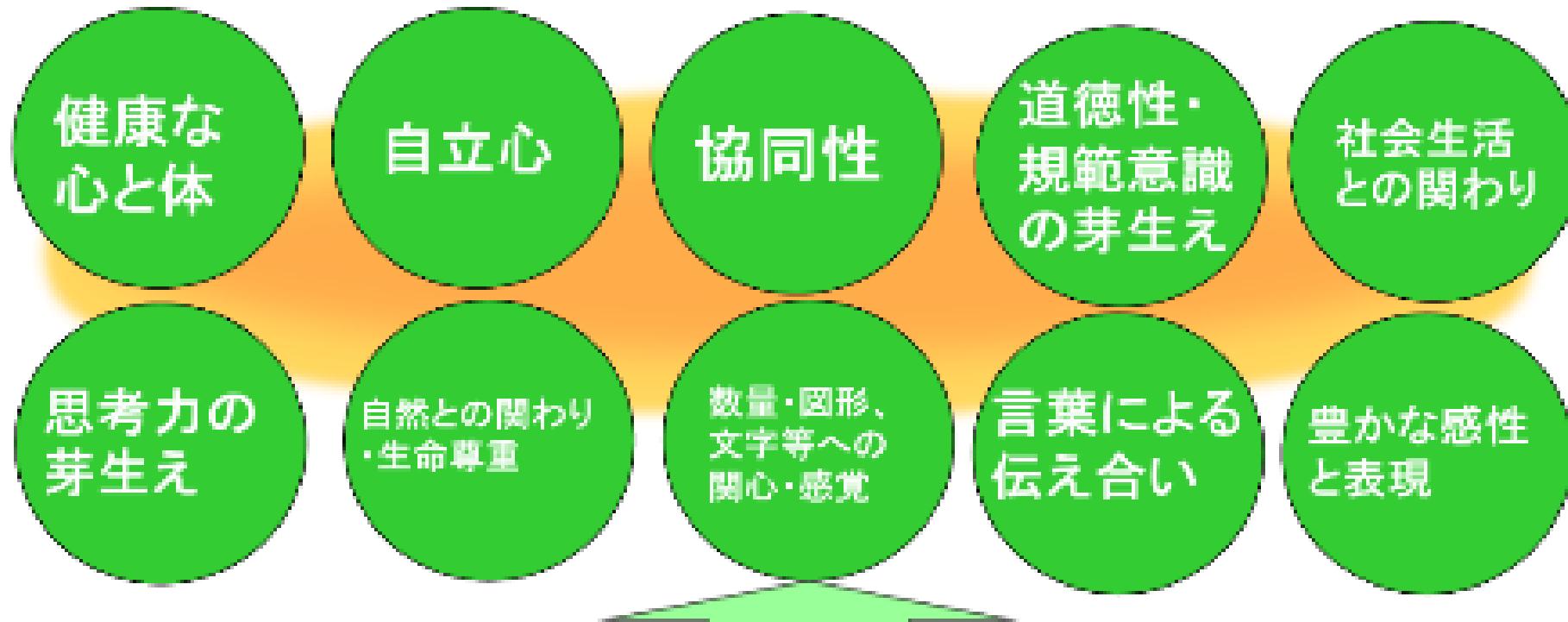
【活動の軌跡や足跡が見える環境】

- 【子どもの足跡が残されている】
- 【子どもが自分自身や友達の成長や存在を感じできる】
- 【保護者への情報伝達を意図している】

図1 保育環境を振り返る枠組　由坪ら（2013）

大項目の再整理

※ 平成22年以降の社会情勢や子供を取り巻く変化、中央教育審議会幼児教育部会等の御議論や「教育課程特別部会 論点整理」等を踏まえるとともに、2030年の社会と子供たちの未来を見据え、再整理したもの。個別の項目の再整理については、次ページ以降に示す。



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とおなかがけ
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公心心等	数量・図形・文字等への 関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育成すべき 資質・能力の整理イメージ（たたき台）

小学校
以上

個別の知識や技能

（何を知っているか、
何ができるか）

思考力・判断力・表現力等

（知っていること・できることを
どう使うか）

学びに向かう力、人間性等

（情意、態度等に関わるもの
（どのように社会・世界と関わり
よりよい人生を送るか））

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

（環境を通して行う教育）
幼児教育

個別の知識や技能の基礎

（遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、
何に気付いたり、何がわかつたり、何ができるようになるのか）

- ・基本的な生活習慣の獲得
- ・規則性、法則性、関連性等の発見
- ・様々な気付き、発見の喜び
- ・日常生活に必要な言葉の理解
- ・身体的技能の基礎や芸術表現のため
の基礎的な技能の基礎の獲得

等

思考力・判断力・表現力等の基礎

（遊びや生活の中で、気が付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）

- ・試行錯誤、工夫
- ・予想、予測、比較、分類、確認
- ・他の幼児の考え方などに触れ、新しい考え方を
生み出す喜びや楽しさ
- ・言葉による表現、伝え合い
- ・振り返り、次への見通し
- ・自分なりの表現

等

遊びを通しての 総合的な指導

- ・思いやり
- ・安定した情緒
- ・自信
- ・相手の気持ちの受容
- ・好奇心、探究心
- ・葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・話合い、目的の共有、協力
- ・表現する喜び
- ・色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・自然現象や社会現象への関心

等

学びに向かう力、人間性等

（心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか）

・3つの円の中で例示される資質・能力は、5つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出したもの

- ・研究の経緯
- ・研究会は、1学期4回、2学期3回、3学期3回開催した。
- ・事例 3歳、4歳、5歳の代表事例を掲載

【研究参加園】

立花愛の園幼稚園 くいせ幼稚園 園田慈愛幼稚園

慈愛幼稚園 七松幼稚園 武庫愛の園幼稚園

みのり幼稚園 百合学院幼稚園 はま幼稚園 明和幼稚園

難波愛の園幼稚園

3歳児

- 写真は当日の発表で公開

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・生命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境	おふろ									
利用しやすい環境	おふろ	おふろ	おふろ		おふろ					
活動過程を支える環境		おふろ	おふろ							
足跡が見える環境				おふろ			おふろ			

4歳児

- 写真は当日の発表で公開

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・生命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境		ダンゴ	ダンゴ	ダンゴ	ダンゴ	ダンゴ				
利用しやすい環境			ダンゴ							
活動過程を支える環境			ダンゴ		ダンゴ					
足跡が見える環境			ダンゴ							

5歳児

- 写真は当日の発表で公開

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境		玉ねぎ	玉ねぎ							玉ねぎ
利用しやすい環境			玉ねぎ			玉ねぎ				
活動過程を支える環境					玉ねぎ			玉ねぎ		
足跡が見える環境		玉ねぎ			玉ねぎ	玉ねぎ		玉ねぎ		

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・生命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境		フリースロー		フリースロー	フリースロー	フリースロー	フリースロー			
利用しやすい環境		フリースロー		フリースロー	フリースロー	フリースロー	フリースロー	フリースロー		フリースロー
活動過程を支える環境		フリースロー		フリースロー						
足跡が見える環境		フリースロー		フリースロー	フリースロー	フリースロー	フリースロー			フリースロー

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・生命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境								おもしやさん		
利用しやすい環境		おもしやさん		おもしやさん	おもしやさん	おもしやさん		おもしやさん		
活動過程を支える環境								おもしやさん		
足跡が見える環境				おもしやさん	おもしやさん					

	健康な心と体	豊かな感性と表現	自然との関わり・生命尊重	言葉による伝え合い	思考力の芽生え	数量・図形、文字等への関心・感覚	自立心	協同性	社会生活との関わり	道徳性・規範意識の芽生え
活動したくなる環境	3歳児	4歳児 5歳児	4歳児 5歳児	4歳児 5歳児	4歳児 5歳児	4歳児 5歳児	5歳児	預かり		5歳児
利用しやすい環境	3歳児	3歳児 4歳児 5歳児 預かり	3歳児 4歳児 5歳児	4歳児 5歳児 預かり	3歳児 4歳児 5歳児 預かり	4歳児 5歳児 預かり	5歳児	5歳児 預かり		5歳児
活動過程を支える環境		3歳児 5歳児	3歳児 4歳児	4歳児 5歳児	4歳児		4歳児 5歳児	預かり		
足跡が見える環境		5歳児	4歳児	3歳児 5歳児	5歳児	5歳児	3歳児 5歳児			5歳児

事例のまとめ

- 3歳：身近なものとかかわる中で五感を使って遊びたくなる環境を整え子ども達を遊びの世界に引き込む
 - 4歳：生き物や素材とじっくり触れ合う中で活動意欲を持たせながらその活動の過程を支える
 - 5歳：様々な問い合わせから探究し、自分たちで話し合いながら活動を進めていく
- ↓
- 一つの目的に向かって皆で協力しあいながら活動する
(協同的な学び)

後半：グループワーク 40～50分

1. 自己紹介（持参したA4事例写真をもとに） 15分
2. チェックシート説明（10の姿×PEMQ） 5分
3. 各自がチェックシートに○を付ける 5分
4. 各自の写真とチェックシートに書き込んだものの発表 15分
5. ふりかえりの記入 5分

後半のグループワークでの約束

- ①写真の事例に書かれている内容の範囲で話して下さい。
- ②写真の事例を批判したり善し悪しを評価しないで下さい。
- ③グループのメンバーが均等に話せるように時間配分を考えて下さい。